

# IDA第19次増資について

令和元年12月26日  
財務省国際局

# 世界銀行グループ概要

## 1. 世界銀行グループとは

途上国における貧困の削減・繁栄の共有の促進を使命とする世界最大の援助機関。

世銀グループを構成する中核4機関は右表の通り。このうち、最も歴史のあるIBRD（国際復興開発銀行）は、第二次大戦後の1945年に設立（加盟国数：189）。

## 2. 組織

本部：ワシントンD.C.

総裁：デイビッド・マルパス（米）

（2019年4月-）

## 3. 日本と世銀の関係

日本は1952年に世銀（IBRD）に加盟。かつては最大の借入国の一つであった。世銀融資は、東海道新幹線や東名・名神高速道路、黒部第四水力発電等の基幹インフラや、製鉄業等の近代化に活用。

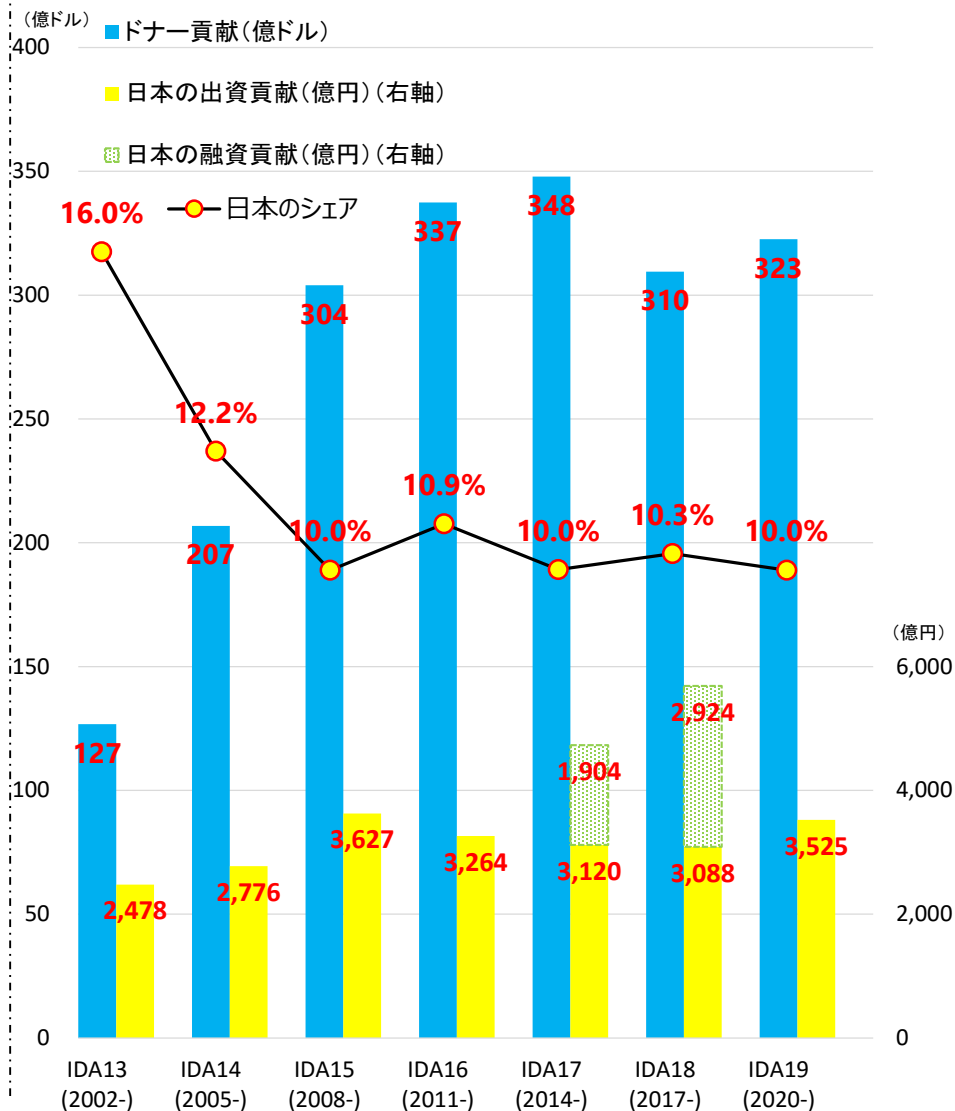
現在、日本は、世銀グループを構成する各機関において、米国に次ぐ第2位の出資国。

|  |   |
|--|---|
|    | <p><b>国際復興開発銀行（IBRD）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○中所得国及び信用力のある低所得国を対象</li><li>○市場から調達した資金で長期融資を供与</li></ul>   |
|    | <p><b>国際開発協会（IDA）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○低所得国支援に特化</li><li>○加盟国からの出資金・市場調達資金をもとに、超長期・低利の融資・グラントを供与</li><li>○3年ごとに増資（本年12月13日の最終会合で決着）</li><li>○担当副総裁：西尾昭彦</li></ul> |
|   | <p><b>国際金融公社（IFC）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○市場から調達した資金で、途上国の民間案件に投融資</li><li>○2018年4月、増資パッケージを発表。低所得国の経済開発を促進するため、IDAとの連携強化を推進中。</li><li>○IFC長官：フィリップ・ルエルー</li></ul>   |
|  | <p><b>多数国間投資保証機関（MIGA）</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○途上国向けの民間投融資に、ポリティカル・リスク保険を供与</li><li>○MIGA長官：俣野 弘（2019年12月就任）</li></ul>   |

# 世界銀行グループ・IDA（アイダ：国際開発協会）第19次増資

- ◆ IDA（アイダ）は、低所得国向けに、超長期・低利の借款やグラントを供与。3年ごとの増資で、必要資金を補充。
- ◆ 今回の増資で、IDAは、日本議長下におけるG20の成果を重点政策として位置付け（質高インフラ・国際保健・防災・債務持続可能性）。
- ◆ IDA19の総資金規模は、IDA債発行等の自己資金の積極的活用で、前回比70億ドル増の820億ドルを確保。このうち、ドナー貢献は、中国やサウジなど新興国からの貢献も増加させつつ、前回比13億ドル増の323億ドル。
- ◆ 日本の貢献のうち、前回活用した融資貢献（円借款）は、低金利環境下での貢献価値の縮小や出資貢献充実への強い要請を踏まえ、見送り。今回、日本の貢献は出資貢献（3,525億円：出資国債）に一本化し、シェア10.0%を確保。

【ドナー貢献・日本の貢献の推移】



(注) 上記の3,525億円に、2005年のG8で決定済みのIDAの重債務貧困国に対する債務救済費用の負担分（480億円）を加えた出資国債総額は4,005億円。

## 国際社会が世界の最貧国支援に 820 億ドルの拠出を誓約 雇用、ジェンダー、脆弱性、気候、ガバナンスが重点領域に

ストックホルム、2019年12月13日 — 世界銀行の開発パートナーである各国政府は本日、極度の貧困撲滅に向けた取組みの勢いを持続するため、世界銀行の最貧国向け基金である国際開発協会（IDA）に対し新たに 820 億ドルを拠出することを発表した。この資金（内、約 530 億ドル超はアフリカ向け）は、途上国による人々のニーズへの投資、経済成長の加速、気候関連の打撃や自然災害に対する強靱性強化を支援するものである。

「本日パートナーの皆様が表明されたコミットメントは、最貧国と最脆弱国における極度の貧困撲滅と繁栄の共有促進という喫緊の課題への支持を明確に示すものです。」と、**デイビッド・マルパス世界銀行グループ総裁**は述べた。「我々は、日本が IDA と、そして支援を最も必要としている人々に高い開発成果をもたらす IDA の能力に、引き続き信頼を寄せていただいていることに感謝しています。今回の増資で、IDA が重点を置く政策のうち、質の高いインフラ、国際保健（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）、パンデミック）、債務持続可能性、自然災害に対する強靱性強化といった重要な開発分野は、いずれも、日本がリーダーシップを発揮してこられました。」

現在、世界の貧困層の 3 分の 2 が IDA 借入国で生活している。今回の増資は、IDA が雇用創出と経済変革、グッド・ガバナンス、責任ある制度に対する支援を強化することを可能にするものである。また、サヘル地域やチャド湖地域、アフリカの角等において、気候変動やジェンダー平等、脆弱性・紛争・暴力が突きつける課題に対処している途上国を支援していく。

IDA は、質の高いインフラ投資など、成長と地域統合を促進する支援をさらに強化する予定である。また、IDA の民間セクター・ウィンドウ（PSW）は今後も、国際金融公社（IFC）と多数国間投資保証機関（MIGA）が、困難な開発課題を抱える地域への民間セクター投資を動員し、途上国が必要とする規模の資金を調達する上で重要な役割を果たすことになる。

IDA は 3 年ごとに増資を実施しており、今回の第 19 次増資の対象期間は 2020 年 7 月 1 日から 2023 年 6 月 30 日である。今回の増資がもたらす資金により IDA は、途上国の人々の生活に大きな影響を与える以下のようなプロジェクトを支援する。

- 最大 3 億 7,000 万人への基礎的保健・栄養・人口サービス
- 最大 8,000 万件に上る熟練した医療従事者による安全な出産
- ブロードバンドインターネットの利用拡大（想定利用者：5,000 万～6,000 万人）
- 最大 1 億 4,000 万人の子供への予防接種
- 最大 60 カ国における統計能力の改善によるガバナンス向上
- 再生可能エネルギーによる発電 10 ギガワット追加

途上国が平等を実現し経済成長を促進できるよう IDA は、債務持続可能性と透明性の向上、デジタル決済技術の利用と適応、障害者の社会参加促進、法の支配の強化、そしてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）に向けた努力を含む、人的資本への投資といった、広範な開発課題にも取り組んでいく。

これらの優先分野に加えて、危機への備えや強靱性の構築、気候関連の行動計画を推進する途上国の支援にも、さらに注力していく。

今回の IDA 増資の成功は、52 の政府からの拠出によって支えられているが、近い将来には更なる国が資金拠出を誓約すると見られている。この他、過去の IDA 融資に対する返済や世界銀行からの資金移転、資本市場から調達した資金も IDA の活動を支えている。この独創的な金融モデルにより IDA は、他のどの組織よりも大きな開発効果を生み出すことができる。

---

国際開発協会（IDA）は、世界の最貧国における極度の貧困を撲滅する取組みに資金を提供する世界最大規模の援助機関である。IDA は世界中の途上国に対し、経済成長の加速、強靱性構築、さらには貧困層の生活を改善するプロジェクトやプログラムの資金を、無利子又は低金利の融資や贈与の形で提供している。1960 年の設立以来、IDA は世界 113 カ国に計 3,910 億ドルを超える資金を提供している。世界銀行グループの一員として IDA は、グローバルな活動を通じて蓄積した専門知識を駆使し、世界の最貧国における貧困削減と繁栄の加速に注力している。IDA19 の支援対象となるのは、低所得国、小国、島嶼国を含む 74 カ国である。

IDA に関する詳細はウェブサイトを参照：<http://ida-ja.worldbank.org/> #IDAworks

**お問い合わせ：**

ワシントン D.C.

**David Theis**

+1 (202) 458-8626

[dtheis@worldbankgroup.org](mailto:dtheis@worldbankgroup.org)

ストックホルム

**Patricia da Camara**

+1 (202) 290-6845

[pdacamara@worldbankgroup.org](mailto:pdacamara@worldbankgroup.org)

東京

**平井智子**

(+81-3) 3597-6665

[thirai@worldbankgroup.org](mailto:thirai@worldbankgroup.org)

映像関係

**Marcela Sanchez-Bender**

+1 (202) 473-5863

[msanchezbender@worldbankgroup.org](mailto:msanchezbender@worldbankgroup.org)

ウェブサイト：<http://ida-ja.worldbank.org/>

Facebook：[www.facebook.com/IDA.WBG/](http://www.facebook.com/IDA.WBG/)

ツイッター：[www.twitter.com/wbg\\_ida](http://www.twitter.com/wbg_ida)

YouTube チャンネル：[www.youtube.com/worldbank](http://www.youtube.com/worldbank)

**プレスリリース番号**

083/2020/DFI

## 財務大臣談話

1. 国際開発協会第 19 次増資交渉（IDA19）が合意に至ったことを歓迎する。
2. 今回の増資では、日本議長下の G20 の成果である質の高いインフラ投資、国際保健（ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）・パンデミック）、債務の持続可能性、自然災害に対する強靱性が重点政策に位置付けられており、日本として高く評価する。
3. 日本は、今回、低金利環境下での貢献価値の縮小や出資貢献充実への強い要請を踏まえ、前回活用した融資貢献は見送り、出資貢献に一本化することとし、3,525 億円（全額出資国債）の貢献を行い、貢献シェア 10.0%を確保することとした。
4. 国際開発協会（IDA）は、低所得の開発途上国の持続的な貧困削減を進める上で主導的な役割を担う機関であり、引き続き、日本としても、積極的に支援していきたい。

（参考） 国際開発協会（IDA）は、低所得の開発途上国に対し、超長期・低利の融資やグラント等を行う世界銀行グループの機関。IDA は 3 年毎の増資で資金を補充しており、IDA19 は 2020 年 7 月～2023 年 6 月の期間を対象とする。